救急事故の多くは事前の予防対策によって未然に防ぐことができます。

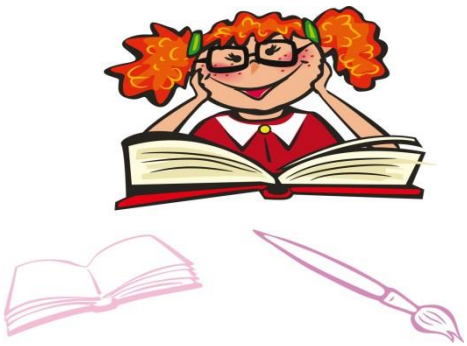
当センターでは、緊急事故を予防する対策として、予防のための応急手当訓練を姶良市消防本部の御協力のもと毎年実施しております。

今年は、12 月 10 日（土）10：30～11：30　大人 11 名子供 6 名

合計 17 名の方に参加していただきました。

姶良市消防本部　救命救急士　青野講師

# 前半は、事故の事例や予防対応策についての講義



## 窒息・誤嚥

### 吐乳による窒息

「赤ちゃんの様子に十分な気配りを」

赤ちゃんは、ミルクと一緒に空気を飲む為、げっぷを十分にしないとミルクをもどした際、喉や気管に詰まり、窒息する恐れがあります。

げっぷがうまく出ない時、１０分～１５分はミルクを吐かないか様子を見て下さい。

予防策：授乳した後は、げっぷをさせた後寝かせる

## 溺れ

### 浴槽への転落

「事故が起こる前にしっかり確認」

知らないうちに子供が浴室に入り、浴槽をのぞき込み転落し、溺れる恐れがあります。

浴室には外鍵をつけて、子どもが勝手に入られないようにしましょう。

予防策：風呂の扉は施錠しておく
入浴後は浴槽の湯を抜いておく

## 転落・落下

### ソファー・ベッドからの転落

「赤ちゃんから目を離さない」

ソファー等に寝かせた場合、寝返りの際赤ちゃんが転落する恐れがあります。

おむつ交換台から、保護者が目を離した隙に赤ちゃんが転落する事故も起きています。

予防策：高い所に寝かせず、ベビーベッドの柵は常に上げておきましょう

## 屋外での事故

### 電車の戸袋への挟まれ事故

「まずは大人が十分な対応を」

電車のドアが開く際、戸袋に手や腕が引き込まれる事故が起きています。

指の切断や骨折などの大きな怪我に繋がる場合もあります。

予防策：電車のドアが開く際、手や腕などが触れないように十分に注意しましょう

## やけど

### 熱いミルクなどによるやけど

「大人の注意で未然に防げます」

赤ちゃんにミルクを熱いまま与えるとやけどをさせる危険があります。

また、片手で赤ちゃんを抱きながら熱いものを取り扱う事は危険です。

赤ちゃんの皮膚は大人と比べ薄く、熱い物が掛かると重いやけどを負いやすく注意が必要です。

予防策：赤ちゃんを抱きながら、熱いものを取り扱わない

## 熱中症

### 熱中症

「一人にするのは最も危険」

赤ちゃんを自動車の中に残したままにしていると、暑い季節は熱中症になる事があり、時には死亡事故につながる事があります。

体温調節機能が未熟な赤ちゃんは大人よりも熱中症になりやすく、特に注意が必要です。

予防策：赤ちゃんを決して車の中に１人で残しておかないようにしましょう。

## 小児対応可能な病院

- 鹿児島市夜間急病センター

  ０９９－２１４－３３５０

  月～土　19時 ～ 翌朝７時

  日・祝　18時 ～ 翌朝７時

- 霧島市医師会医療センター

  ０９９５－４２－１１７１

  月～土　19時30分 ～ 22時30分

  日・祝　18時30分 ～ 21時30分

# 後半はＡＥＤと人形を使って応急手当訓練

参加者の方から「救命士の方の実体験に基づく講義でリアルティがありました」など感想をいただきました。

子供は大人からみると思いがけない行動や反応をする事があります。

子どもの特性と行動を知り、家庭内や身の回りのちょっとした事に注意を払い、適切な対策を講じ事故の発生を未然に防止することが重要です。

姶良市消防本部の皆様、ご協力ありがとうございました。